

# 箕島球友会 V2ならず

## 全日本クラブ野球

社会人野球クラブチームの日本一を決める第43回全日本クラブ野球選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催)は13日、メットライフドーム(埼玉県所沢市)で準決勝、決勝があった。前回王者の和歌山箕島球友会(西近畿地区代表)は準決勝でウイン北広島(北海道地区代表)を零封したが、決勝で大和高田クラブ(東近畿地区代表・奈良)に延長十回タイブレークの未敗れ、連覇はならなかった。

【後藤奈緒】



【大和高田クラブー和歌山箕島球友会】優勝を逃し、肩を落とす和歌山箕島球友会の選手たち  
一埼玉県所沢市のメットライフドームで、玉城達郎撮影

決勝のマウンドを託されたのは、前回大会の決勝で完投した左腕・和田拓也投手(24)

だった。しかし、序盤から制球が定まらず、一回、先頭打者に出塁を許すと、安打を浴びて先制点を奪われた。スタンドで見守っていた和田投手の母ゆかりさん(54)は「肩に力が入っている。どうか持ってほしい」。

エースを援護しようとチームも奮起する。二回1死二、三塁から2点適時打で逆転する

と、1番・黒岩拓馬選手(23)と続く新人の池島主悦選手(22)の連打で計3点を加えた。池島選手は「2番として中軸につなげようと頑張っている」と目を細めた。

### 悔しさからの旅立ち

○…チーム最年長選手として後輩を引っ張ってきた水田信一郎捕手(30)は妻や実母、4月に生まれたばかりの長女心椰ちゃんら家

族、親戚6人が球場で応援する中、決勝に臨んだ。1点を追う二回、2点を奪う逆転打を放ったものの、2点を追う延長十回タイブレー

ク無死一、二塁ではバントミスで併殺に終わった。試合後、「とにかく悔しいの一言に尽きる。初心に帰ってできることを着実にこなしていきたい」と雪辱を誓った。

「決勝まで来るとは思っていなかった」と選手をねぎらいつつ、相次いだ攻守のミスを振り返り、「この悔しさを糧にしたい」と再出発への決意を語った。

▽準決勝

ウイン北広島  
0000000000  
0000000000  
和歌山箕島球友会  
001000000X1  
(ウ)吉田一長谷田(和)寺岡水田▽二塁打 永井、鈴木(ウ)

▽決勝

大和高田クラブ  
10200110100319  
050001000017  
和歌山箕島球友会

(延長十回)

(ウ)米倉、本野、金村、松林、大谷、恩庄(箕)和田、北面▽水田▽本塁打 竹島(大)▽三塁打 池島(箕)▽二塁打 山本(大) 渡部(箕)

三回以降、相手チームも粘りを見せ、箕島球友会は守備の乱れもあり、和田投手は六回途中、無念の降板。救援した北面成也投手(26)は八回、6-6と同点にされ、試合は延長タイブレークにもつ

れ込んだ。スリーランを浴びた直後の十回裏、小川大樹選手(22)の適時打で1点を返したが、後が続かずゲームセット。スタンドにはため息が広がったが、すぐに健闘をたたえる拍手に包まれた。

西川忠宏監督(5)は

「決勝まで来るとは思っていなかった」と選手をねぎらいつつ、相次いだ攻守のミスを振り返り、「この悔しさを糧にしたい」と再出発への決意を語った。